

静岡文化芸術大「引佐耕作隊」

棚田論文で特別優秀賞



浜松市北区引佐町の久留女木の棚田で活動する静岡文化芸術大(中区)の学生グループ「引佐耕作隊」が手掛けた論文がこのほど、農業分野の先進的な取り組みをテーマに全国から募集する第29回ヤンマー学生懸賞論文で、2番手にあたる特別優秀賞を受賞した。学生が22日、同大で横山俊夫学長に受賞報告した。

保全ビジネスモデルを提案

耕作放棄地が多い棚田を活用して米作りと販売に挑戦したのは鈴木晴香さん(文化政策学部3年)、中野七海さん(同2年)、西田あいらさん(同1年)、望月環さん(同)、松浦あづみさん(デザイン学部1年)。美しい景観や生物多様性への貢献といった棚田の多面的機能

棚田の多面的機能に注目したビジネスモデルを論文にまとめた引佐耕作隊の学生ら
―浜松市中区の静岡文化芸術大

を消費者に伝えた上で、その価値を米の価格に反映し、棚田を保全するビジネスモデルの実践例を論文にまとめた。具体的手法として、棚田の役割や機能を紹介する商品パッケージを考案し、棚田の多様な価値への理解が少ない傾向にある市内中心部住民を中心に収穫した米を販売した。船戸修一准教授が担当する科目の一環で、2016年度から始まった取り組み。参加2年目の中野さんは「農業を専門にする学生が応募した中で評価されたのはうれしい。長く続くプロジェクトにしたい」と話した。(浜松総局・柿田史雄)